

1/31 ヨハネの福音書 2章 1-11 節「キリストの栄光が現れるため」

小池 宏明 牧師

今日は、主イエス様が行った「最初のしるし」に注目する。主なる神様は水をぶどう酒に変えるというしるしを通して何を伝えておられるのだろうか？

*喜び楽しむためのしるし

主イエス様の母マリアは、ナザレに住んでいたが、カナの町（ナザレから北へ10キロほど）で結婚式に参加した。その時の新郎新婦は、ヨセフやマリアの親戚ではないかと思われる。当時の結婚の宴会は1週間ほど続いた。ユダヤには古くから「ぶどう酒なければ、喜びなし」ということわざがあるように、宴席で、ぶどう酒が切れてしまうことは、実に情けない、恥ずべきことだったのである。3節「ぶどう酒がなくなると、母はイエスに向かって「ぶどう酒がありません」と言った。」マリアはこの祝宴の主催者や花婿、花嫁が恥をかくことがないように心配した。集まっている客人たちから喜びが消えるのが耐えられなかったのであろう。30年間も一緒に暮らしていたイエス様も、母の心配をよく知っていたようで、御業を成そうとしていた。4節は「お母さん、気になさることはありません。安心してください。わたしの働くべき時が来たなら、成すべきことをしますから。」という意味である。神の御子であられるイエス様は、主権的に自律的にご自分の時を定めて、行動を起こす方である。マリアもイエス様も「お祝い場の楽しみや喜びが失われないように」と願い、主イエス様は、ご自身の栄光を現わされると共に、人々の喜びや楽しみのためにも御力を発揮された。私たちの信仰生活、主イエス・キリストと共に生きる道は、喜びと祝福に満ちた生活である。イエス様は、人々が、悲しみに暮れて、険しい顔をして生活することを求めては、おられないのだ。私たちの喜び、楽しみのためにも働かれるイエス様である。

*栄光を現すためのしるし

イエス様は水をぶどう酒に変える奇蹟を起こされた。(6-10 節) それは、11節にあるとおりご自身の栄光のためなのだ。「イエスはこれを最初のしるしとしてガリラヤのカナで行い、ご自身の栄光を現された。それで、弟子たちはイエスを信じた。」「ご自身の栄光を現す」とは「ご自分が神であることを示す」こと。弟子たちは、主イエス様こそ、まことの神であると信じた。ナザレのイエス様こそ、まことの神であることが明らかになったのである。私たちは、このようなしるしによって、まことにお頼りしてよい救い主イエス・キリストが共にいることを確信することができる。